

麻活プロジェクト

—麻機で生活する私たちの私たちによる私たちのための活動—

静岡北特別支援学校の周辺には、広大な麻機（あさばた）遊水地があり、平成26年度から遊水地の環境保全を中心とした活動「麻活（あさかつ）プロジェクト」（以下、「麻活」という。）に取り組んでいます。この活動は、地域のひと・もの・ことを活用しながら協働し、「みんなと仲よく、明るく元気に、せいっぱいがんばるひと」の育成を目的としています。麻活を中心に据えたカリキュラム・マネジメントにより子どもの資質・能力を育てている静岡北特別支援学校の取組について紹介します。

■縦の学びのつながり

麻活での学びは、小1から高3までの子どもに育まれる資質・能力でつながっています。例えば、小1の遊びの指導では、教員が扮する「麻機沼のばあさん」に誘われ、夢中になって感触遊びを楽しみます（図1）。その中で、人や物に関わる力や探究心が育まれていきます。これら小学部で育まれた資質・能力は、中学部や高等部では、主体的に社会生活に参加していく力や自分の生き方を考える力へと発展していきます。12年間の学びの積み重ねにより、主体的に取り組む力や人と関わる力、学びを生活に生かす力が確かなものになっていくと考えます。



図1 感触遊びの様子

■横の学びのつながり（高等部の教科横断的な取組から）

身に付けさせたい力を明確にした上で、作業学習や総合的な学習の時間などに麻活が位置付けられています。例えば、作業学習では、遊水地で麻機レンコンを栽培したり（図2）遊水地の葦を活用した紙で名刺を作成したり遊水地にすおカヤネズミに関連した製品を作ったりしています。同時に、総合的な学習の時間では、動植物の観測をしたり遊水地整備に係る講義を聴いたりし、美術では、遊水地をモチーフとした作品を制作し、特別活動では、生徒会主催遊水地写真コンクールに取り組んでいます。このような教科横断的な取組により、子どもは「遊水地の中で学ぶ高校生としての役割を果たしたい」と考えるように成長しています。



図2 作業学習の様子

■地域とのつながり

授業を計画するにあたり、地域の方や専門家、事業所等に対して、学習の場・教材の提供やゲストティーチャーの派遣、情報発信や直接的・間接的な交流の場の設定をお願いしています。関係者と子どもが協働することで、支え合い、学び合い、高め合う関係を築きながら相互理解を深めています。

作業学習では、遊歩道の草刈りや草花への水やりを行います。地域の方は、子どもが育てた花が咲くのを楽しみにしています。また、麻活に賛同した地域の方が本の読み聞かせやグラウンド・ゴルフ、昔遊びに参加してくれ、交流が充実してきました（図3）。地域と協働しながら学習を積み重ねることにより、子どもは体験したことを社会とのつながりの中で意味付けることができるようになっていきます。



図3 地域の方との交流の様子

高等部の取組として始まった麻活ですが、実践を評価する中で小学部や中学部の取組へと広がったり外部人材のつながりが拡大したりしています。また、子どもの発達や興味に即した活動であることや、遊水地という地域特性を最大限に生かすこと、地域と協働しながら共に成長することなど、よりよい活動を模索し続けながら今日に至っています。静岡北特別支援学校の麻活は、全教職員が一丸となってカリキュラム・マネジメントを行い、成果を上げている実践であるといえます。

※「Column 3 カリキュラム・マネジメントとは」と併せてお読みください。